

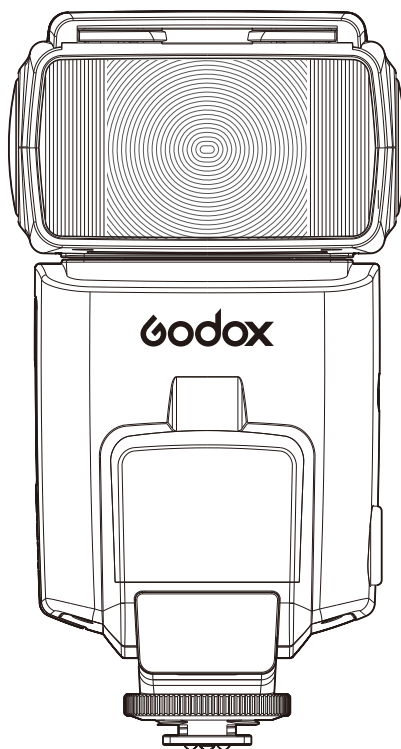


株式会社 プロ機材ドットコム

THINKLITE

TT680-C

Canon E-TTL II Compatible Flash
INSTRUCTION MANUAL



GODOX Photo Equipment Co., Ltd.

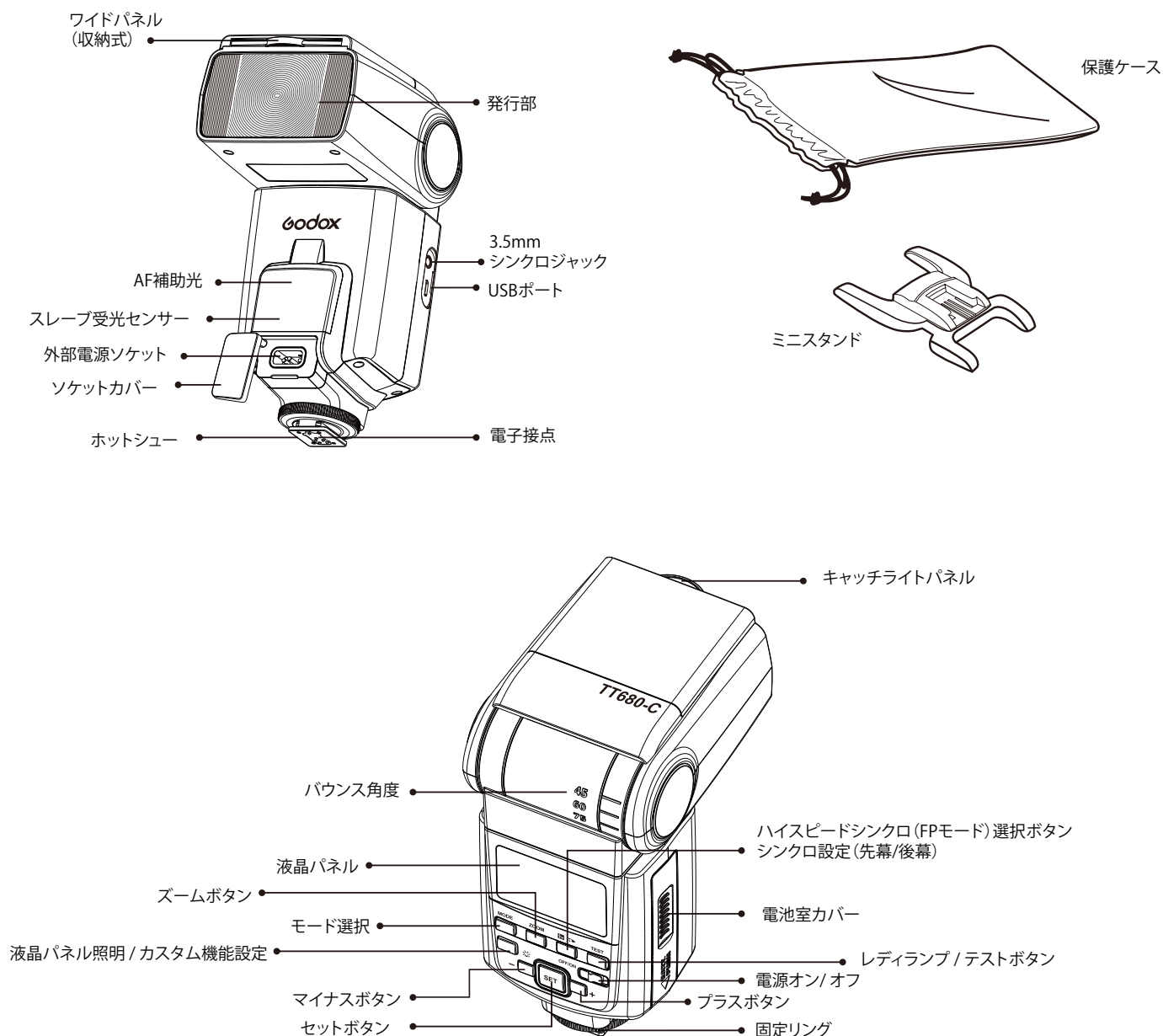
Building A4, Xinhe Huafa Industrial Zone, Fuzhou RD West, Fuyong
Town, Baoan District, Shenzhen 518103, China

<http://www.godox.com>

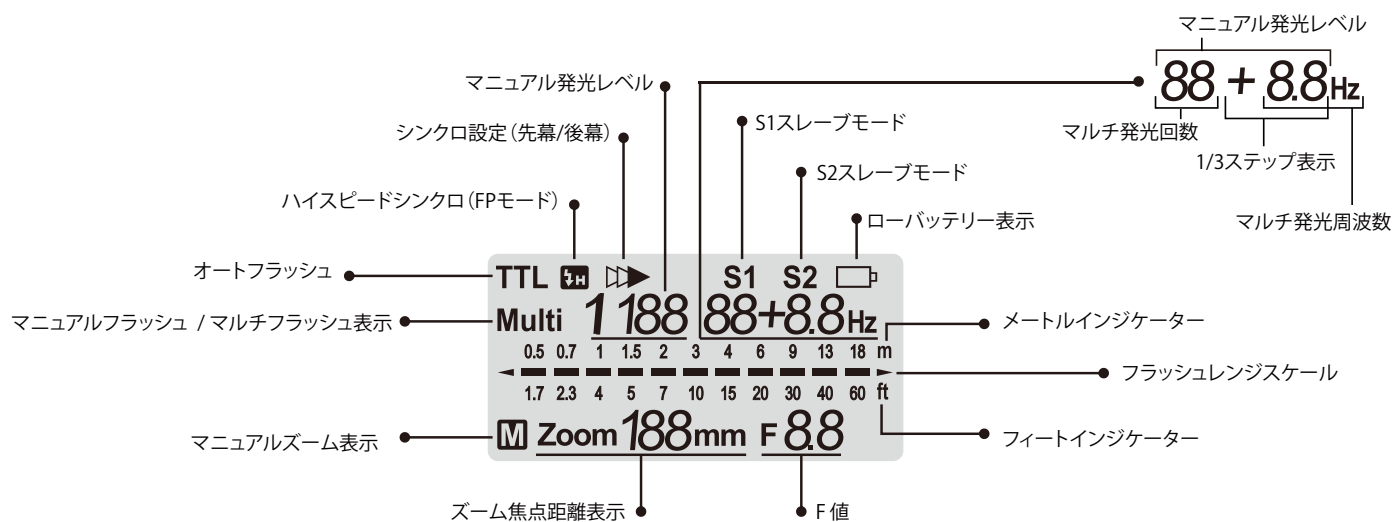
705-TT680C-03

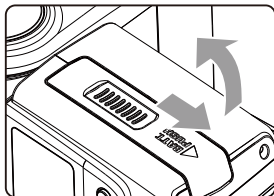
Made In China

CE RoHS 

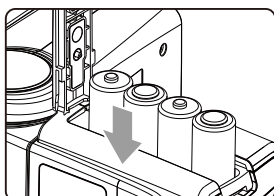


液晶パネル

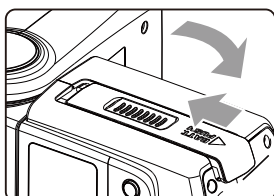




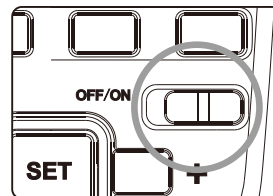
- 1 バッテリー部カバーを図のよう に押し下げてから開けてください。



- 2 プラス / マイナスの極性に気を付けて バッテリー装填してください。

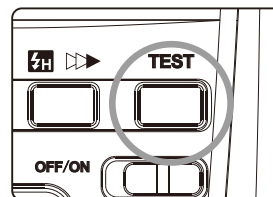


- 3 カバーを閉じた後、スライドさせロックしてください。



- 1 電源スイッチを ON に入れるとすぐにストロボを充電し始めます。

⚠ 電池アイコンが点滅したら 4 本とも新しい電池に交換してください。



- 2 テストボタンが赤く点灯したら充電完了、発光可能になります。テストボタンを押す事で発光テストできます。

パワーマネージメント

カメラに取り付けられた場合、90 秒以上シャッターボタンが半押しされないとスリープ状態に入ります。スリープモードの場合は 60 分です。スリープからの復帰にはシャッター半押し、もしくはテストボタンを押してください。

⚠ 長時間使用しない場合は電源を OFF にしないと電池はわずかに消耗します。

充電時間

約0.1～5秒

発光回数

約100～700

(単三アルカリ使用時)

● 注意事項

1. 端子をショートさせないでください。
2. バッテリーは防滴・防水ではありませんので、水滴がかかる場所に置いたり水中には入れないでください。
3. お子様の手が届く場所に放置しないでください。
4. 24時間を超える充電をしないでください。
5. 湿気の無い、空気の流通がある場所で保管ください。
6. 火気のある場所に置いたり、火中に入れしないでください。
7. 使用できなくなったバッテリーを破棄する場合は、お住まいの市区町村のルールに従って処分してください。
8. 3ヶ月以上ご使用にならない場合は、一度フル充電してからご使用ください。
9. 古い電池と新しい電池を混ぜて使用しないでください。
10. 単三ニッケル水素充電電池やリチウム電池も使用できます。

フラッシュモード E-TTL

本機は E-TTL、マニュアル (M)、マルチ (ストロボ・スコーピック) の 3 つの発光モードを持っています。E-TTL モードはカメラの自動調光に完全に対応しております。なお、下記に説明しているいくつかの機能の設定はカメラの液晶メニュー画面から行います (FEC、FEB、FEL、HSS、後幕シンクロ、モデリング発光など)。
(モードのボタンを押すと 3 つの発光モードが液晶に表示されます。)

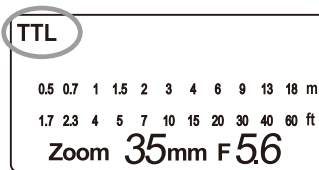
E-TTLモード

モードボタンを押すとフラッシュは E-TTL 機能になります。

- ・カメラを半押しで自動合わせピントと絞りの値が液晶に表示されます。
- ・プリ発光により撮影条件の情報をカメラに伝えます。

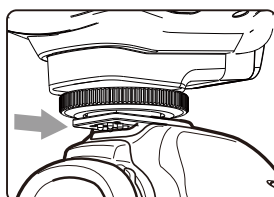
※露出不足の場合はカメラのシャッター ISO で設定してください。

全自動フラッシュ撮影

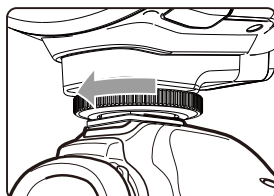


カメラの撮影モードを <P> (Program AE) もしくは <□> (Full Auto) に合わせて、ストロボを TTL に設定すれば、全自動フラッシュ撮影が可能になります。モードボタンで TTL を選択してください。

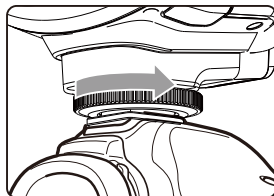
カメラへの取付け / 取り外し



- 1 カメラへの取付け
カメラのホットシューに差し込みます。



- 2 カメラへの固定
固定リングを回してロックします。



- 3 カメラの取り外し
取り外すときは、固定リングを緩めてから引き抜きます。

シンクロコード

本機は 2.5mmφ のシンクロコードジャックを持っておりますので、専用のシンクロコードを用いてカメラフラッシュとしてシャッターに同調させることができます。

モデリング発光

カメラに被写界深度プレビューボタンを装備している機種では、プレビュー ボタンを押すことで、1 秒間のモデリング点灯を行うことができます。ライティングの確認にご使用ください。なお、ワイヤレス使用時はスレーブモードではなくマニュアルの S1、S2 モード時のみ使用可能となります。

注意

- ・オーバーヒートを避けるために、10 回以上のモデリング発光は避けてください。もし 10 回のモデリング発光を行った場合、10 分間の休止をしてください。
- ・なお、一部の EOS KISS およびタイプ B のカメラではモデリング発光 が動作しません

オートフォーカスアシストビーム

AF補助光の投光

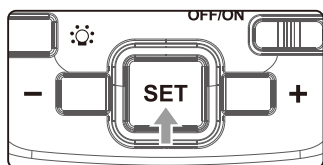
カメラの設定からする / しなないを選択できます。カメラによってはストロボからの補助光投光ができない機種もあります。

AF補助光有効距離

0.7~6m

FEC : ストロボ調光補正

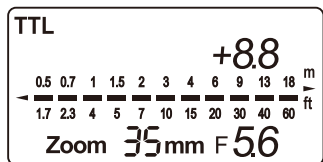
調光範囲は -3EV~+3EV です。セットボタンを押して「+」「-」ボタンで調光補正ができます。設定後セットボタンを押すことで確定されます。なお、カメラ側からの補正を加えても同期しますが、その場合は補正表示が点灯しますが本機液晶パネルには、補正量は表示されません。



1 セットボタンを押すと「+」表示が出ます。

2 調光補正量の設定
「+」「-」ボタンで調光補正量が設定されます。調光補正を取り消したい場合は 0 に設定します。

3 セットボタンを押すと調光補正 が確定し FEB に設定されます。



注意
ストロボ調光補正は TTL モードでのみ使用可能。
補正値は電源を切っても記憶されています。

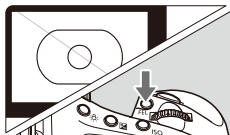
FEL : フラッシュ光量ロック

E-TTL モードでは、カメラの FEL ボタンを押すことでストロボのプリ発光が行われて、露出量が測定され、その後発光量がメモリーされます。FEL ボタン はカメラによって異なりますので、カメラの取扱説明書を参照してください。

1 被写体のピントあわせ

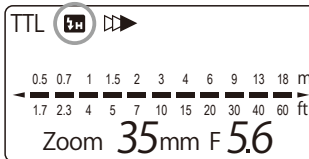
2 FEL のピントあわせ

被写体にピントをあわせ FEL ボタン(<*> ボタン)を押す。フラッシュはプリ発光し、適正 な光量を測ります。カメラのファインダーの中に 0.5 秒 FEL の表示がされます。カメラの FEL ボタンを押すごとに フラッシュはプリ発光し、FEL を設定しなおします。



注意
このマークでもし被写体が遠い場合は露出不足の場合は、このマークがファインダーの中に点滅したときに被写体に接近し、その後 FEL ボタンを押してください。
被写体が小さい場合は FEL が機能しない場合があります。

ハイスピードシンクロボタンを押します。E-TTL およびマニュアルモード時に 高速シャッター速度に同調可能となります。いわゆる FP 発光となります。※カメラ側のストロボ同調速度設定で、高速シンクロが可能になるように設定されていないと、カメラのシャッター速度がある速度以上にセットできない場合がありますので、カメラの取扱説明書を参照してください。

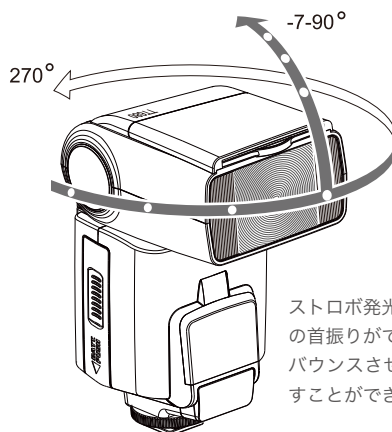


このマークを選択します。
を押すとがでます。
カメラのファインダーの中にも
がでます

- ・シャッタースピードをカメラの最大シンクロスピード以下にセットしている場合 のマークは出ません。
- ・ハイスピードシンクロはシャッタースピードが速い場合発光範囲が狭くなります。

マルチ発光は使用できません。

バウンスフラッシュ



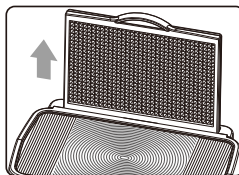
ストロボ発光部は左右 270°、上下は -7°~90° の首振りができます。
バウンスさせることで被写体の後ろの影を消すことができます。

注意:

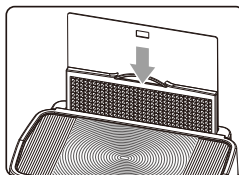
- ・天井が非常に高い場所では十分な反射光が得られない場合もございます。
- ・壁や天井にバウンスする場合、その表面の色によって正確なホワイトバランスがとれない場合もございますので、テストの上でご使用ください。

キャッチライトパネル

キャッチライトパネルを用いることで、目にキャッチライトを入れることができますので、表情に輝きをもたらす効果が得られます。



1 発光部を上90°にセットします。



2 ワイドパネルを引き上げますと、キャッチライトパネルも一緒に出てきます。

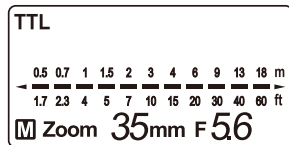
3 ワイドパネルだけを押し下げます。キャッチライトパネルが使用できます。

注意:

- ・キャッチライトをうまく入れるには、ストロボヘッドをまっすぐ 上90°にセットしてください。このときヘッドが左右に振られているとうまく入らない場合があります。
- ・また適切なキャッチライトが入る距離は被写体から 1.5m 程度の距離でお使いください。

フラッシュカバー範囲は、自動あるいはマニュアルズームが選べます。対応 照射画角は 24mm~105mm 相当です。

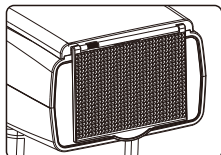
内蔵のワイドパネルを用いますと 14mm 超広角レンズ相当となります。マニュアルズームのセットは、ズームボタンを押して、「+」「-」ボタンでレンズ焦点距離を選択します。M ズームの表示が出ていないときはレンズのズーミングに自動対応します。



ズームボタンを押し、<+><-> ボタンを回すことで発光距離が調整できます。M 表示が出ていないときはレンズへのズーミングに自動的に対応します。



ワイドパネルを用いたときは、ズームボタンは機能いたしません。

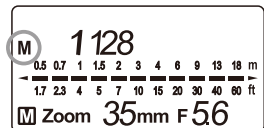


ワイドパネル

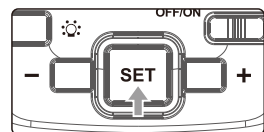
ワイドパネルを使用することで被写体の後の影が出にくくなります。

マニュアル発光モード

本機はフル光量から 1/128 光量まで 1/3EV ステップで選択できます。マニュアルモードで適正露出を得るには、フラッシュメータなどを用いて発光量を決定してください。

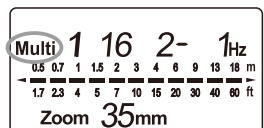


1 モードボタンを押して、液晶ディスプレイに M を表示させることでマニュアルモードに入ります。

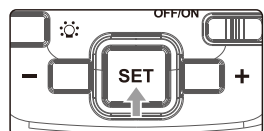


2 出力調整セットボタンを押して「+」「-」キーでフル光量~1/128 まで 1/3 ステップで選択

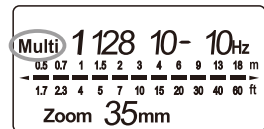
マルチ発光機能



1 モードボタンを押して Multi を表示させます。



2 「+」「-」ボタンで発光量を選択します。



3 発光周波数と発光回数の設定方法
<SET> ボタンを 1 回押すと点滅周波数の設定になります。
もう一度 <SET> を押すと発光回数の設定になります。
最後に <SET> を押すと設定されます。

マルチ発光を用いた撮影は、発光している間シャッターを開いておく必要があります。マルチ発光設定とシャッター速度の関係は下記の式で求めてください。

総発光回数 ÷ 周波数 = シャッター速度

例) 5 (回) ÷ 5 (Hz) = 1 秒



マルチ発光は、内部回路や発光量への負荷がかかります。オーバーヒートによるダメージを避けるために、10 回以上の連続発光は避けてください。10 回以上の連続発光を行った場合は、できるだけ 15 分以上の休止を行ってください。また 10 回以上の連続発光後、オーバーヒートによる自動停止モードに入った場合も、同様に 15 分以上の休止を行ってください。休止中は単発発光もしないでください。

ストロボスコーピック効果を得るには、三脚を用いてバルブにセットし、室内灯は消して（あるいは露光に影響ない程度の明るさに）、黒バックで撮影することをおすすめします。また被写体の動く速度に応じた設定を行う必要がありますので、テストの上効果的な設定数値を決定してください。

三脚とレリーズの使用をおすすめします。

マルチ発光モードでは、フル発光と 1/2 発光は選択できません。

以下の数値は最大マルチ発光の回数となります。

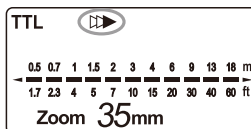
最大連続発光周波数表

Flash Output Hz	1	2	3	4	5	6-7	8-9
1/4	7	6	5	4	4	3	3
1/8	14	14	12	10	8	6	5
1/16	30	30	30	20	20	20	10
1/32	60	60	60	50	50	40	30
1/64	90	90	90	80	80	70	60
1/128	99	99	99	99	99	90	80

Flash Output Hz	10	11	12-14	15-19	20-50	60-99
1/4	2	2	2	2	2	2
1/8	4	4	4	4	4	4
1/16	8	8	8	8	20	20
1/32	20	20	20	18	16	12
1/64	50	40	40	35	30	20
1/128	70	70	60	50	40	40

後幕シンクロ

本機のシンクロモード設定ボタンによって後幕シンクロに切り替えられます。カメラの外部ストロボ機能設定からも設定が可能です。カメラの取扱説明書を参照してください。



4H/4B を 2 回押すと 4B が表示されます。

ワイヤレス設定

マニュアル発光に設定するとワイヤレスで発光させる事が可能です。

1 モードボタン を長押しして、S1/S2 アイコンを表示・選択します。

S1 リモート設定（光通信ワイヤレスモード1）

マニュアル発光モード時、S1 表示がある場合は、他のストロボが発光を受けて 同調発光が行われます。S1 モードは単発のフラッシュ光に対応しております。他のストロボがマニュアル発光モードの場合や、スタジオ用ストロボの光を併用する場合に使用するモードとなります。

S2 リモート設定（光通信ワイヤレスモード2）

マニュアル発光モード時、S2 表示がある場合は、プリ発光ストロボに対応した同調発光が行われます。ETTL モードのプリ発光には同調しないで、本発光にのみシンクロするモードです。ただし、本機の発光はマニュアル発光なので、十分テストの上ご使用ください。

設定できるものは下記の通りです。 ※"√"がフラッシュはOK。"0"が不可。

カスタム番号	設置機能	No.	設置機能の説明	※
C.Fn-00	距離の指示表示	0	メートル	0
		1	インチ	
C.Fn-01	オートパワーオフ	0	オン	√
		1	オフ	
C.Fn-02	モデリング発光	0	オン	0
		1	オン	
		2	オン	
		3	オフ	
C.Fn-03	FEB自動取消	0	オン	√
		1	オフ	
C.Fn-04	FEBの順序	0	0 → - → +	√
		1	- → 0 → +	
C.Fn-05	発光測定モード	0	E-TTL II/E-TTL	0
		1	TTL	
		2	外部発光オート測定	
		3	外部発光マニュアル測定	
C.Fn-06	ハイスピード連射モード	0	オン	0
		1	オフ	
C.Fn-07	自動テスト発光	0	1/32	0
		1	フル発光	
C.Fn-08	オートフォーカス補助投光	0	オン	0
		1	オフ	
C.Fn-09	画像センサー自動ズーム	0	オン	0
		1	オフ	
C.Fn-10	スレープオートパワーオフ時間	0	60分	√
		1	30分	
C.Fn-11	スレープオートパワーオフ取消	0	8時間	0
		1	1時間	
C.Fn-12	外部電源	0	フラッシュと外部電源	0
		1	外部電源	
C.Fn-13	フラッシュ露出測光モード	0	フラッシュボタンとダイヤル	0
		1	ダイヤル	

カメラのメニュー画面からストロボ制御

カメラにセットした場合、カメラの液晶メニューからカスタムメニューの操作が可能です。以下の説明を参考にしてください。

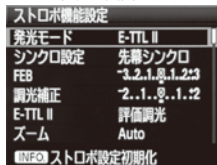
設置フラッシュの説明

発光モードによりいろいろな機能

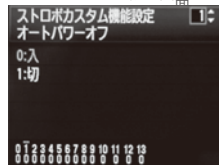
1. 発光モード
2. スレープモード
3. FEB
4. 発光露出補正
5. フラッシュの発光
6. フラッシュの設定キャンセルモード

すべてのカスタム機能のキャンセル

カスタム機能の画面



フラッシュカスタム設定画面



以上の画面はEOS-1D Mark IIの画面です。

1. 過熱防止機能について

本機はオーバーヒートによる保護機能を持っております。20 回以上フル発光を連続で使用しないでください。20 回以上使用したら 10 分以上休ませてください。

2. その他のエラーメッセージ

保護機能が働いた場合のメッセージです。

液晶表示	表示内容
E1	内部回路のエラー。 発光できませんのでサポートセンターまでお問い合わせください。
E2	内部温度上昇のエラーです。10分以上の休止をしてください。
E3	発光管の異常が生じております。 サポートセンターまでお問い合わせください。

製品仕様

型式	TT680-C
タイプ	キヤノンEOSカメラ E-TTLII互換
ガイドナンバー	58(m ISO100)
フル1/1 ズーム105mm	
照射範囲	24mm～105mm (ワイドパネル使用時14mm) オートズーム(レンズのズーム操作に対応) マニュアルズーム ヘッドのスイング/ティルト 水平方向0～270°/ 上下-7°～90°
閃光時間	1/800～1/20000秒
フラッシュ制御機能	E-TTLIIオート、マニュアル発光
フラッシュ光量補正	マニュアル補正 FEB±3EV(1/3刻み)
FEC	光量補正とフラッシュブラケット併用可
FELロック	カメラのFELロックボタン または< * >ボタン
同調モード	FP発光モード(1/8000秒まで同調) 先幕シンクロ / 後幕シンクロ
マルチ発光	可(90Hz)
スレープ	S1/S2 光トリガー
モデリングフラッシュ	カメラの被写界深度確認ボタンにて
AF補助光有効距離	0.7～6m
電源	単三4本 (アルカリ・ニッケル水素・リチウム)
リサイクリングタイム	0.1～5秒 充電完了表示 赤色LED点灯
最大発光回数	100～700回 (アルカリ使用時)
パワーセーブ	約90秒間操作をしないと自動休止モードに スレープ待ち受け時間は最大60分
同調方式	ホットシュー、2.5mmφシンクロコード、 ワイヤレス同調
色温度	約5600K±200K
サイズ(W H D)	83 x 154 x 112mm
重量	395g

使用可能なカメラ

本機はすべての EOS デジタルカメラに対応していません。

2014 年 4 月次点でテスト済みカメラは
5D MarkIII、5D Mark II、6D、7D、60D、50D、40D、30D ほかです。
お手持ちのカメラが対応しているかどうかは、各自でテストしていただきますようお願い申し上げます。

- ⚠ ストロボ側で発光補正を行った場合、カメラ側の補正はできません (ストロボ側の設定が優先されます)。
カメラ側から発光量の補正を行う場合は、ストロボの補正は 0 を選択してください。
またその場合、カメラ側から補正を行った後に、ストロボ側で補正を改めてセットすると、後から操作したストロボ側の補正が適用されます。